

平成29年度 第5回教育委員会定例会

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第26号 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議規程の制定について</p>	<p>燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議規程の制定について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第18号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について</p>	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

平成29年度 第5回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成29年8月10日（木）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後4時30分</p> <p>垂水小学校 3階 第2音楽室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員長 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 池松 烈</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成29年度第5回教育委員会定例会を開会した。

2 平成29年度第4回定例会会議録及び第1回臨時会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第26号 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議規程の制定について
議案第18号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について

4 その他

- (1) 夢の実現！学びの教室について
- (2) わくわくドキドキ！夢教室について
- (6) 第11回シーカヤック大会 in 垂水（報告）について

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告 26 号
社会教育課長	燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議規程の制定について 燃ゆる感動かごしま国体垂水市庁内推進会議規程の制定について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告。
教育長	競技の普及状況はどうか。
社会教育課長	フェンシングの選手として皆さんが御存知なのは太田雄貴選手ぐらいか。昨年のオリンピックでは駄目だったが、前々回のオリンピックではいい成績を取った。やはり国体が行われるスポーツの中ではマイナーなスポーツの類になってしまう。それでは、鹿児島では素地があるのか、やっているとところがあるのかとなると、鹿児島南高校、鹿児島高校と限られた学校で、なかなか選手も多くない競技であるが、国体の正式競技である。垂水市においても、フェンシングをやるとなった以上は、垂水市民全体でおもてなし、選手の皆さんにも熱い声援を送りたい、そのためにも地元の選手がいればということと、フェンシングに親しむ機会があればフェンシングの普及にもつながると、様々な取組をしている。小中学生を対象にしたフェンシング教室を今入門講座として1週間に1回ずつ行っている。垂水市全体では、昨年実施した「わくわくどきどき！夢教室」で太田選手をはじめオリンピックに出られた選手計3名の講演や実演をし、すごく好評をいただいた。
野村委員	市内から有力な選手が出てほしいという願い、気持ちがあるが、それを叶えてくれそうな選手がいるか。今のところどんな現状か。
社会教育課長	昨年から続けている子が3名いる。お母さんが垂水出身で、練習会場がないため鹿屋市から来ている中学1年生の女子がいる。この女子生徒は先日、中学校の総体で全国大会に行ってきた。その他垂水の男子が2人いる。一人は県大会の小学生の部で優勝した。地道ではあるが少しずつ育っている。今年高校総体で優勝した鹿児島南高校の3年生の女子がいるが、この生徒は高校1年からフェンシングを始めた。中学校までは別競技をしていた。素地はあったんだろうが、高校に入ってから始めても優勝ができる、期待のもてる競技でもある。
野村委員	フェンシングは昔から鹿児島県で2高しかなかった。鹿児島南高校と末吉高校。現在はどうか、末吉はやっていないのでは。
社会教育課長	中心的には、鹿児島南高校と鹿児島高校と川内商工高校でやっている。フェンシングのインターハイは前年度に霧島市で開催される。霧島市は霧島市で競技普及を図っていく。県全体でもまたフェンシングの知名度は上がっていくのではと考える。
教育長	市民の方々にも普及し関心を持ってもらったらいい。

<p>教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長</p>	<p>議案第 18 号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することについて説明。</p>
<p>田原委員</p>	<p>8 ページの評価表は私共が評価したものだが、委員の研修について、様々な研修があって、いっぱい資料も貰うが、これを勉強仕切れない部分もある。会議の時に、このイベントはこういうところがよくて、ここをもっと工夫したらとか発言して、それが次の施策に活かされていくのではないかと考えている。そういうかたちでしかなかなか研修を活かす機会がないのではとったりする。</p> <p>2 番の「当面する課題に対する研修が適切になされたか。」が昨年から下がっているというのは、どうしてかなと思う。いじめ問題、問題行動、学力向上など、結果が出た段階で、協議されたので、タイムリーな研修はできたのかなと思う。8 月 2 日の県の市町村教育委員の研修の時、島津教育委員が言われた。教育委員会制度が改善、改革され、特にいじめ問題等については、迅速に対応できるようにするために改善がなされたはずだ。全国の中には、まだ、いじめの発見が遅れたり、その対応について教育委員会が知らなかったというそういう事例が報道されていると。だから私達も、レイマンコントロール、民間人の視点を持ちながら委員として役割を果たしていかなければならないと考えている。</p>
<p>教育長</p>	<p>早速研修の成果を活かして提案いただいた。田原委員がおっしゃったとおり、教育委員会制度の大きな目的は、いじめ問題等の重大事件への対応というところが求められており、決して知らなかったとか、発見が遅れたとかは言えない訳で、学校と連携していかに速く情報を得て迅速に対応していくか。これは、主管課である学校教育課を中心にそういうところを取り組んでいるところである。今後も継続してやっていく。</p>
<p>葛迫委員</p>	<p>研修会に我々教育委員も全部出られない。仕事があつたりして厳しかったりする。そういう中で、教育委員会から言われた研修ではなくて、個人的に様々な研修に誘われたりすることがあるが、子供達の教育にどのような活動をすることで子供達の教育向上につながっていくのかと考えたときに、私の場合は確かに、美術関係、薩摩焼の研究会があつたり、芸能であつたり、美術展の講習会があつたりとか、そういうことで何か子供達へのアプローチができて、子供達に力を付けてあげることができたらいいのに考えているところであるが、なかなかそういう教育委員会の研修だけではなくて、様々な研修会も利用できればいいのかなと考えている。</p>
<p>教育長</p>	<p>葛迫委員の場合は、専門の美術を活かして、例えば校内研修の図工、美術にも入っていただいているし、合わせて市がやっている和田コンの方も審査員ということで、運営から関わっていただいております、そのことで垂水の子供達が絵が好きとか、もっと絵を描きたいという芸術、文化の方へ目が向いていくのではと思う。これからも引き続き個人的な研修も大事にし</p>

	<p>ていただきながら、子供達に還元していただけたらと思う。ありがとうございます。</p>
野村委員	<p>多岐にわたって評価がなされるが、はっきりわかるかたちで評価が出てくるのがまずもって難しい。しかし、全体的に私達も手を抜くことなく一生懸命取り組んでやっている。だから、あのときあの会に出られなかったなど年間の中のちょっとした気掛かりなことが影響していると思う。総体的に見ると、総合評価は0.1向上ということだが、懸命になって取り組んでやっているという自負はある。そのあたりを理解していただければいいと思う。</p>
教育長	<p>野村委員のおっしゃったことは非常に外部評価委員の方々も高く評価していただいた。11 ページだ。教育委員会の取り組みについて、2つ目の後段、「熱心に活動しておられる委員の方々の存在がなかなか周知されていないのは残念である。」。やっぱり見ておられる方はしっかり見てくださる。我々もそういう一字一句も大事にしながら今後もまた活動していけたらいいと思う。決して数字に惑わされることなく、やっていきたい。子供達のために、学校のために、地域のためにというところが委員さん方の思いじゃないかと思う。</p>
教育長	<p>異議がないようなので、議案第 18 号は承認された。</p>
4 その他	
学校教育課長	<p>21ページの説明に入る前に、追加でもう1つ説明報告させてほしい。8月8日、9日、「あつまれわんぱく！夏の勉強会」を開催した。これは、小学校4、5、6年生の希望者が垂水中央中学校に集まって夏の勉強会をするという催しだ。本年度は、130人の子供達が参加をしてくれた。これは、市内のそれぞれの学年の約3分の1の子供達が参加したことになる。そして、市内の先生方40人が、個別に近いかたちでの指導をしてくださった。国語、社会、算数、理科、中には、「夏休みの宿題が終わったよ。」というような喜びの声も聞こえてきたし、「分からなかったところが分かるようになった。」とか、「できるようになった。」と喜びの声が聞こえたところである。また、「算数マジックショー」もあって、子供達が算数の面白さを気付いてくれるような取り組みや、中学校を意識した理科の実験があったり、子供達は非常に生き生きとした中で学習をしてくれていたことを1つ付け加えさせていただいた。</p>
学校教育課長	<p>(1) 夢の実現！学びの教室について 平成 29 年度「夢の実現！学びの教室」の状況について説明</p>
学校教育課長	<p>(2) わくわくどきどき！夢教室について 平成 29 年度「わくわくどきどき！夢教室」の状況について説明</p>

教育長	わくわくドキドキ！夢教室について、新聞に掲載されたことを学校教育課長報告を。
学校教育課長	夢教室が終わった後に、中央中学校の生徒と垂水小の児童各1人が、南日本新聞の「ひろば」欄に投稿し、「非常に感動した。いい音が出ていた。自分達も頑張りたい。」というような内容だった。
田原委員	オーケストラは、子供達は経験が初めてだったと思う。最初から、子供達のテンションが上がって、一体になって聴けた。本当に素晴らしい体験を子供達はさせてもらったと思う。
野村委員	垂水市は「わくわくドキドキ！夢教室」でやっているが、小学校、中学校の年代、この時期に、あらゆる分野にわたるが、超一流に触れてもらう。そこに意味があると思うが、鹿児島県下でどのくらいこういう企画をもっている市町村があるのか。そして、高額な資金が必要だと思うが、市としてそこらあたりはどうか。
学校教育課長	本市がやっているように、全市的に子供が集まってくるというのは、規模的に難しい状況がある。学校ごとにやっているところはある。ところが、資金との関係で、卒業生や縁故を頼っていかなければならない状況のような中で実施していると思われる。本市は、「子どもたちの夢を育む総合プラン」の夢教室プランの中の最重要事項である。今回で4回目であるが、「バレエ」、「オペラ」、オリンピック選手による「フェンシング」を僅かな予算で来ていただいている。今年は、関係者の理解を得て、昨年倍の予算を投入して「オーケストラ」を実施した。あの子供の表情を見たときにこんなに素晴らしいものはないなと感じていただけののかなと思っている。現実として、これをずーっとやっていくというのは、教育委員会として予算を組んでいかないといけないと思っているので、方法はいろいろと工夫しながら、予算もできるだけ上手に考えながらということをやりたいと思っている。
教育長	ちょっと付け加えていいか、私が勤めていた薩摩川内市は面白いやり方をする。各学校に10万円あるいは20万円を配分し、各学校で、あるいは、数校で自由に計画し実施している。10年くらい前に、私は「宮下純一」を呼んだ。ホリプロに入ったばかりで、正式ルートでいけば、かなり費用がかかる。それを、私はたまたまお父さんを知っていたから、お父さんの方から依頼してもらい、結果、安価で来てもらった。まだ、ホリプロに入りたて、北京で銅メダルを取ったばかりだ。非常に勢いがあつたあの当時。子供よりも誰が喜んだかというとお母さん方だった。お母さん方もいっぱい来てくださった。子供達ももちろん喜んだ。そういう風に、県内各市町村、子供達の夢を育むような、本物に触れさせる体験というのはやっている。ただ、課長から出たように、金額がいつも高額というわけにはいかないので、そこはうまくバランスを取りながら、財政当局との折り合いをつけながら、あるいは、実施の仕方についても少しは発達の段階も考慮しながら、たとえば今回は中学校と小学校を切り離してと、やり方はいろいろ

	あるのではないか。そういうところも工夫しながら、今後さらに充実した夢教室を子供達に提供していきたい。
社会教育課長	(3) 第11回シーカヤック大会 in 垂水 (報告) について 第11回シーカヤック大会 in 垂水について報告
野村委員	暑かった。テントの中に入っていたが、輻射熱というか、次の日は真っ赤になっていた。年々人数が増えていくというか規模が大きくなっていて、非常に喜ばしい。自分が見ているより、水の中に入りたい。36度か37度かそれよりもっと上がったところもあったのでは。皆さん炎天下で、我々は楽しく見せていただいたが、実際競技をやる方は大変な思いをされてやられたと思う。非常に夏のスポーツ大会として、大変魅力的な大会じゃないかと思う。これからは是非よろしくお願いします。
教育長	市の職員も炎天下で頑張ったと申し添える。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	1. 「第4回協和寺小屋 (協和地区公民館主催) 開催について」 8月9日 (水) 協和地区公民館主催で第4回協和寺小屋が開催された。 1. 協和小児童及び協和地区出身の中高生を対象とする。地域外児童生徒も参加可というかたちで、 ① 学習への意欲を引き出すチャンスの提供 多様な学習経験を通して、学校教育での学習との連続性を認識する。 ② 地域の全ての世代 (特に高齢者) と対話することで地域への愛着を高める 高齢者の体験話を通して、ふるさとをよく知りまた愛する気持ちを高める。 ③ 地域の文化や歴史を皆で学習し認識する 児童生徒や大人 (高齢者) 達の学習活動や体験話を収集し、雑誌「いでゆ」の復刊に向けて努力する。 ④ アクティブ・ラーニング型学習による学習の経験を深める 自ら行動し、調査し、体験し、発見し、問題解決する学習に取り組む。 以上の4つを「協和寺小屋学習」の目標として、長崎大学の井手弘人先生の主導のもとに開塾した。今回は通算して4回目の開催になった。 2. 当日の実施内容は、午前に①②、午後③④を実施。 ① 夏休みの課題サポート塾 子供達の夏休み課題を、長崎大学教育学部学生6名が支援しながらの学習。

- ② お昼ごはん自分達で挑戦塾
自分達で協力して昼ごはんを作ることに挑戦する。学習者の気持ちの連帯を深める。
- ③ 「むかしの協和の話」伝承塾（「記憶の記録化」プロジェクト）
協和地区の高齢者の方々に来ていただき、昔の地域のいろいろな話をしてもらう。
- ④ 「むかしの協和」創作塾
③の伝承塾をもとに、印象に残ったこと、考えたことなどを俳句や絵や書道などの作品で表現する。歴史、文化、芸能、生産、地域の生活状況など。
「創作塾」では、地元出身の書道の先生も参加され、一人一人丁寧に指導されていた。

また、圧巻は、「大太鼓踊^{うでこおどり}」の実演であった。若い頃に実際に経験された高齢者の方々が、昔使っていた鉦や太鼓やバチ（枹）を持参され、その所作、動きの連動を伝授するために、子供達と一緒に繰り返し実践された。

田原委員

1. 「九州地区市町村教育委員会研修大会（宮崎大会）について」
8月3日から4日に九州地区市町村教育委員会研修大会（宮崎大会）に出席した。
地元宮崎の講演と研究発表だったが、両方とも素晴らしい内容であった。中でも、日向市の「キャリア教育」の発表は目からうろこの感じがした。
キャリア教育を地元の産業界、行政、学校が一体となって進めており、その推進役の支援センターを商工会議所に置いている点に驚かされた。商店主や企業の若手社員が後輩を育てるように、小学校や中学校、高校に出かけて話をしたり、職場に招き職業体験をさせている。学校の職場体験学習では、先生が企業に出向き、職場で体験内容などを話し合う。行政は、支援センターの取組を市を上げてバックアップし、高校卒業後も地元に残って就職するような気運の醸成に努めている。三者に共通してぶれない理念は、故郷を誇りに思い、早い段階から将来どう生きるかを考えさせ、それが学ぶ意欲に繋がるように互いに連携して仕組んでいるところだと思った。職場体験学習を単なる体験に終わらせない、働く意味や企業人としての生き方を小学生や中学生の内から触れさせて学ばせているところが素晴らしいと思った。

葛迫委員

1. 「錦江湾シーカヤック大会in垂水について」
7月17日（月）錦江湾シーカヤック大会in垂水に参加した。晴天で猛暑の中で開催された本大会は今年で11回を数え、垂水の夏の風物詩の一つになったのではと感じている。
鹿児島県内や垂水市内、宮崎や熊本の県外からの参加者もあって、大変な盛り上がりを見せていた。また、この暑さの中で、事故などが無かったことは、実行委員会の皆様や各関係機関の方々の努力の賜物と思われる。
今後も、この大会が県内外に魅力あふれる大会として知れ渡り継承されることを願っている。

2. 「鹿児島市立美術館特別企画展 「バロックの巨匠たち」 開場式について」

7月25日（火）は、市小学校水泳記録会が開催されていたが、鹿児島市立美術館特別企画展の「バロックの巨匠たち」の開場式の方に参加した。毎年夏休みの時期になるといろいろな美術館で様々な美術展が企画される。子供達が鉛筆と用紙を持って絵の前に立ち、何やら「あーでもない、こーでもない。」と言いながら、目の前の絵に対して自分の意見をメモしている姿が目立つ。

今年も鹿児島市立美術館では7月25日から9月3日までの間、「バロックの巨匠たち」と題した展覧会が開催されて、25日はミニコンサートから開場式があるということで午前中参加してきた。本展覧会は16世紀末から18世紀初頭にかけてヨーロッパ全域に広がった、光と影が織りなすドラマチックな力強い描写で構成されるバロック様式の展覧会で、作品点数44点が展示されている。

3. 「あつまれわんぱく！夏の勉強会（垂水中央中）について」

8月8日（火）2校時の時間帯にあつまれわんぱく！夏の勉強会を少し伺ってみた。子供達がどの子もまじめに宿題やプリントに取り組んでいる様子が伺えた。塾やキャンプ、旅行と子供達の夏休みは忙しいと思うが、この夏の勉強会に多くの子供達が参加し、また、小学校の先生だけではなく中学校の先生方も参加していただいたことに感謝し、子供達の教育向上の目的を持って今後も頑張ってもらいたいと思った。

教育長

1. 「あつまれわんぱく！夏の勉強会（垂水中央中）について」

あつまれわんぱく！夏の勉強会は、私も見ていたが、子供達が1番目が輝いたのは、「算数マジックショー」の場面と、もう一つが、「理科の実験教室」。こういうところは体験をする、あるいは、子供達が興味のあるものについては、子供達の食いつきがいい。それと、私が嬉しかったのが、夏休みの宿題をそこでやるが、それがどんどん片付いていく。終わっている子もいた。きっとその子にとっては、夏休みの後半が楽しく過ごせるのではないかな。そういう意味で、私は目的は十分達成できたのではないかなと思う。勉強が進んでいる子はどんどんチャレンジしていけばいいわけで、いろんな思いで、まずは、参加してくれることに感謝。それから仲間作り、いろんな経験をしてくれることに意義があるのかなと思う。

2. 「子供の命について」

子供の命について非常に考えさせられたことだった。7月30日に、私が最後校長として勤めた玉江小学校の2年生の男の子が県営住宅の8階から転落して亡くなった、あつてはならない痛ましい事故であった。1年間とはいえ、私が校長時代当時1年生だったわけで、あの子と私は何回ハイタッチをしたかなと考えた。私は毎朝校門で子供達とハイタッチをして1日のスタートだった。遺影を見ながら、この子だったんだと思いながら、実際顔も拝んだ。ただ、私が心を痛めたのは、気丈に対応されているお父さん、お母さん、そして、目の前でおっこってくる弟を見てた6年生のお兄ちゃん。その子は親子3人で弔問者の対応していた。そこに非常に心を痛

	<p>めたし、あつてはならないこと。壁の高さは100cm、そこに手摺をつけて、110cm。あの手摺が曲者。子供にとっては、手摺は鉄棒、遊び道具。あれにぶら下がってひょいと、運動神経のいい子なんかは、体が持ち上がってしまう。1回目は近くにいた中学生が注意したらしいが、2回目、バタッと落ちてしまった。身体のバランスが崩れて。その場面を見た子供達がいいて、心のケアということで、カウンセラーが入っている。こういう事故が起こると、いろんなところでいろんな方々が心配したり、手立てをうったりしないとならない。ただ、親御さんが偉かったのは、1週間たって、先週金曜日、お父さん、お母さんが学校に、「御迷惑をおかけしました。」と、校長、教頭、職員にわびに来られたそう。これには私もびっくりした。非常にPTA活動にも熱心な方だ。ただただ御冥福を祈るのみだ。絶対にあつてはならない事故として、子供達も気をつけて夏休みの後半を迎えてほしい。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>7月11日から8月10日までの主な行事等について報告。併せて、9月11日までの予定についてお知らせした。</p>
<p>6 閉 会</p>	